

高校生の社会的自立に向けた自己理解能力と援助要請力の育成 - 生徒が自ら相談相手を選ぶキャリア・カウンセリングを通して -

三苫由美子(福岡教育大学大学院/福岡県立糸島高等学校) 西山久子(福岡教育大学大学院)

問題と目的

キャリア教育は、全ての教職員が各教科等の学習や個別の進路相談の機会を生かし、「基礎的・汎用的能力」を生徒に醸成する(中央教育審議会, 2012・2016)。個々の生徒が、自分の役割を通して活動しつつ自分らしい生き方を実現する、**社会的自立に向けたキャリア発達**を目指したい。生徒の自己理解や発達段階に沿った援助要請力向上のためには、学級担任だけでなく、複数の教職員が多面的な視点からかかわって、生徒に気づきを促すことが必要である。

生徒が相談相手を全教職員から選ぶ、キャリア・カウンセリングの実践を通して・・・

生徒が主体的に自分のこれまでを振り返り、将来の生き方を考えるための**自己理解**を深める。また、学級担任による定期面談以外に、**課題や希望に合わせて自己決定**した教職員と話し、多様な**援助資源の存在**を知る。同時に**自分を見守る目の存在**に気づく。各教職員は専門性を生かして生徒とかわり、共有した情報をもとに、**多角的・多面的な生徒理解**を「チーム」として行っていく。

一次援助として

方法

※ 本研究の「キャリア・カウンセリング」…進路面, 学習面, 心理・社会面等生き方全般に関わる

対象: 公立X高校第1学年353人, 教職員59人(1学級37人を実践群とし, 8学級を統制群とする。)

検証方法: 【事前(9月)・事後(12月)アンケート】 ①援助要請スタイル尺度(永井, 2013), ②援助要請スキル尺度(本田・新井・石隈, 2010), ③キャリア発達社会的能力尺度(小泉, 2021), ④キャリアデザインカ尺度(改訂版・職業理解のみ)(三川・石田・神田・山口, 2017), ⑤進路や将来, 自己について考える場合に援助要請するか, またその際の援助資源を問うための, 第一著者の独自の質問紙, 【事後(12月)のみ】⑥実践群生徒・担当教職員の感想(自由記述)


研修: 教職員…傾聴して気づかせるキャリア・カウンセリング, 情報共有について

準備: 生徒…キャリア探索用シート作成, 相談の仕方について (SEL-8Career※活用)※(小泉・山田・伊藤, 2021) 自らのニーズに合わせて相談相手を選択

教職員一覧: 顔写真, 担当教科・部活動, 生徒へのコメント

管理職を含む

キャリア・カウンセリングのスケジュール

9月	事前アンケート(①~⑤)	
	職員研修・実践群生徒説明 キャリア探索用シート作成	
10月	教職員一覧配付・相談相手選択form入力	
	担当割発表, 生徒が予約して面談実施 スプレッドシートで教職員間の情報共有	
12月	事後アンケート(①~⑤+実践群と教職員⑥)	
以降	自主申請によるキャリア・カウンセリング	

結果と考察

生徒が活用できると意識する援助資源は、統制群・実践群共に保護者が最多であるが、実践群は事後では保護者や友人以外の大人, 特に「**担任以外の教員**」の割合が増加したことが特徴である(表1)。取組後, 自主申請して相談を受ける生徒の姿も見られる。また, 本取組では, **自分の意見を尊重された喜び, 安心, 気づき**から, 実践群の95%が満足したと回答した(表2)。①~④に明らかな有意差はないが, 「キャリア探索用シート」で自己分析してキャリア・カウンセリングを受けた実践群の方が, 統制群よりも事後の全項目が

高得点であった。事後の得点が下がった項目は, コロナ明けの学校行事等を経て, 自己評価が現実的に厳しくなったと推察する。自己理解と援助要請のスキル向上には, 苦手克服に限らず, よさを伸ばす開発的なアプローチが必要である。一方, 教職員の感想には**生徒に対する見方の変化や支援への意欲の向上**と共に, 援助要請された際の対応への不安が見られた。生徒の気づきを促すフィードバックの充実に向けた教職員の連携・協働の強化を図るため, 傾聴の力量を高める研修の在り方や情報共有・活用の仕方の検討が課題である。

表1 進路・将来に関する援助資源の選択者数・割合(検証方法⑤)

進路・将来に関する相談相手	統制群		実践群	
	9月 % (人)	12月 % (人)	9月 % (人)	12月 % (人)
保護者	81.1 (167)	83.0 (171)	83.3 (20)	79.2 (19)
担任	22.8 (47)	23.8 (49)	25.0 (6)	33.3 (8)
担任以外の教員	1.9 (4)	6.3 (13)	12.5 (3)	33.3 (8)
塾の先生	7.2 (15)	5.3 (11)	16.7 (4)	25.0 (6)
友人・先輩	39.8 (82)	36.9 (76)	45.8 (11)	25.0 (6)
親族・きょうだい	18.9 (39)	20.9 (43)	4.2 (1)	8.3 (2)
SC	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)
SNS・掲示板	1.9 (4)	2.4 (5)	0.0 (0)	4.2 (1)
その他の人	4.9 (10)	0.0 (0)	8.3 (2)	0.0 (0)

表2 実践群生徒の本取組に対する主な感想(検証方法⑥)

今まで経験した面談との違い	%
普段話せないことや本音で話せた	25.0
事前の計画・予約をして自分で話せた	13.9
自ら選んだ教職員との面談を終えて	%
真剣に親身に話を聞いて考えてもらった	22.2
これからの勉強法が分かった	19.4
進学など進路や将来について話せた	16.7

一次援助としての本実践において, 相談内容は, 集団守秘のもと, スプレッドシートを用いて, 全教職員で同じ情報を共有する。それに基づいた系統的・計画的なチーム援助ができる効果的な運用に向けて検討中である。